第６６号　進路新聞

令和４年２月２５日（金）
福井東特別支援学校

はばたき

◆校長先生より◆

学校を卒業するまでに、様々な関係機関との調整が必要になってきます。医療、福祉、労働など、ケース会議をする度に、それらの機関が増えてくることが理想的です。なぜならばお世話になる関係機関は、卒業してからも子どもたち一人一人の応援団になるからです。

その意味で学校ができることは、在学中に応援団を多く増やすことです。日ごろの家庭や学校での生活、そして地域へ出かけた時にどういった応援団が必要なのかを一緒に考えていくことが大切です。

そのためにも、保護者の皆様のご理解とご協力が不可欠です。そして何よりも、本人の気持ちが大切です。いくら回りの人たちが一生懸命になっても、本人自身がその気持ちがなくては前に進むことはできません。子どもたち一人一人の希望ある人生を過ごすためにも、子どもたち自身そして保護者の皆様と一緒に応援団を増やしていきましょう。

◆事業所体験実習（中学部・高等部Ａコース）◆

３名の生徒が保護者同伴のもと、福祉事業所で事業所体験実習を行いました。１学期の実習と同様、「将来利用したいサービスを体験する」「これまで利用したことがない事業所を見学する」「今の生活をもう少しだけ、改善できるような事業所を探してみる」などを目的に、実習先を決定しました。保護者の方からは「実際に事業所の雰囲気やスタッフの様子、設備面を見ることができてよかった」「スタッフの方の話をじっくり聞けてよかった」「今後も何度か体験し、将来のサービスにつなげていきたい」などの感想が寄せられました。また、事業所からは、「一人一人の普段の様子を教員、保護者の方から聞いたり観察したりできたので、今後のサービスにむけて課題を整理し検討するよい機会となった」という意見を複数伺いました。その一方で、常駐看護師の不足、入浴サービスの困難さ、医療的ケア生徒の送迎時の課題、等のこれまでも度々課題としてあげられてきた面が、改めて浮き彫りとなりました。

また、昨年度に引き続きコロナ感染症の影響で、ショートステイサービスを利用した宿泊を伴う実習は実施できませんでした。そこで、感染症が収まり受け入れ可能となった時期に、個別にショートステイ体験を実施し、卒後の入所に向けて事業所との関係を築いた生徒もいました。ショートステイを体験できなかった卒業を控えた生徒については、オンラインでの食事風景の観察や各課題についての検討会を実施することで事業所側の不安に対応しました。この後も事業所と情報交換しながら、健康管理に気をつけ新しい環境での生活に向けた準備をしていきたいと心新たにする機会となりました。

感染症拡大によりできないことも多々ありましたが、オンラインであっても情報共有の有効性は確かなものだと実感しました。これからも、いろいろな形での実習を検討しながら、生徒とその家族が外部とつながっていけるよう模索し続けていきたいと考えています。

実習先：デイサービスいっしょ家、総合福祉支援事業所わかたけ、はぁもにぃ永平寺、こども療育センターオアシス、なないろキッズ、光道園たねの家

◆病肢中学部２年職場体験実習◆

今年度は、２名が「ハートワーク」で職場体験を、１名が「ペットシッターゆう」の御協力により職業体験・インタビューを行いました。

「ハートワーク」の職場体験の事前学習では、「仕事」や「働く」ということは何かを考える学習を行ったり、「ハートワーク」でお借りした物品を使ってできるだけ当日と同じ作業を体験したりしました。その甲斐あって、一人の生徒は、体験当日には「楽しみです」と話すほど安心した様子で参加しました。そして、製品のラベル貼りの活動をとおして、「だんだんと作業にかける時間を短くしていくことができた」「できあがったときに、事業所の方から“完璧、ありがとう”と言われたことがとても嬉しかった」などと話すなど、自信に繋がったようでした。また、もう一人の生徒は自分なりの参加の仕方を考え、当日は学校の教室と事業所を遠隔通信で繋ぐことで、事業所を訪れたもう一人の生徒と同じ作業を体験することができました。目標にしていた数以上のラベル貼りをすることができ、達成感を味わっていました。また、ラベルを貼った商品はどのお店に並ぶのか興味を寄せるなど、視点を広げることもできました。

「ペットシッターゆう」での職場体験・インタビューを行った生徒は、自分の興味・関心のある職業をもとに、それに関連するお店を調べて体験先を決めました。また、自分がなりたい職業に就くために必要なことは何かを考えようと、実際に働く人へのインタビューも行いました。中学生のこの時期に実際の職場に出かけて体験をすることは、「知る」ということに大きな意味があるように考えます。社会の仕組みについて知る機会は限られていますが、今回の職場体験をとおして「仕事」や「働く」という新たな視点から自分自身や社会を見ることができたことは、これからの進路を考えていくための糧になったのではないでしょうか。

◆病肢高等部秋の産業現場等における実習◆

感染症予防をしながら、企業や事業所の御理解、御協力のもと、実習を実施することができました。各学年で実習の目的は違いますが、自分の良さや課題に気付いたと思います。貴重な実習経験を自分のものにし、今後の生活に活かしていきましょう。

《１年生》　初めての外部実習で、事業所の職員、利用者の方と一緒に働きました。社会と学校の違い、仕事をする上で大事なことなどに気付きました。今回の経験を活かし、保護者の方や先生と相談して次の実習先を考えていきましょう。

《２年生》　今後の進路先を意識した実習になりました。また自分の向き不向きがわかったり、身なりを整えることや、時間を守る事など働く上でのマナーの大切さを改めて実感したりしました。この結果を踏まえて、３年生を目の前にした今、本気を出していきましょう。

《３年生》いよいよ進路先を決定するための実習でした。４月からはここで働くんだという決意のもと実習に臨んだ人もいましたし、どちらが自分に合っているかを確かめるために複数の実習先に行った人もいました。その結果、それぞれの将来像がしっかり見えてきました！

実習先
見学先

《一般企業》　ハーツ志比口、しまむら、愛育病院、フレンドマート開発店、GU、宝石時計のタケウチ

《福祉事業所》　足羽サポートセンター、足羽ワークセンター、あおい福祉会Ｂ型、松本ファクトリーB型、前進主義ふくい、就労支援センターあおい、ウッディ工房美樹、福授園鳥羽事業所、ハウスやわらぎ、タクティクス（福井南、福井西）、こもれび、ハートワーク米松、まごころ

◆病肢高等部秋の産業現場等における実習の感想

～１年生～

- 静かで落ち着いて（集中して）作業ができる環境だったのでよかった。
- プラスチックにラベルを貼る時、テープに空気が入らないよう貼るのが難しかった。
- 三日目に集中できた。かなり疲れたが､A型や一般就労はもっと忙しいのだろうと思った。

～２年生～

- 仕事を自分でできるよう工夫したり、卒業後の生活のイメージをつかんだりすることができた。

～３年生～

- 無理せずに､分からない時は質問することが大切だと学んだ。
- 自分の好きな作業ができたのがよかった。また、仕事の大変さを学んだ。
- 前回と同じ所で実習し、出来なかった事がたくさん出来るようになったので自信がついた。体力も以前よりついたので、卒後に向けて更に体力をつけたり、出来ることを増やしたりしたい。

◆病肢高１年生 秋の実習 発表会

実習後、生徒一人一人が実習についての振り返りを行いました。それらをパワーポイントなどにまとめ、発表しました。

発表は、実習先の紹介から仕事内容、目標、反省、課題など多岐にわたり、多くの学びが見られました。仕事の様子を動画で流す生徒もいました。生徒たちにとっては、緊張感を持ちながらも自分が経験したことや考えたことを伝えるよい機会にもなりました。聞く側も、熱心に発表に耳を傾けていました。発表後には、質問も飛び交い様々な仕事や進路について考える機会になりました。

◆今年度卒業生進路先◆

《一般就労》２名　《福祉的就労》７名　《福祉事業所等通所・入所》２名　《進学》１名　《その他》１名